

# 新機一転

名古屋市会議長  
なかざと たかゆき  
中里 高之氏



昭和39年生まれ。平成19年4月、名古屋市議員当選（以来4期連続当選）。26年5月から27年3月まで、財政福祉委員会委員長。28年4月から29年4月まで、自由民主党名古屋市議員団幹事長。令和2年5月から名古屋市会議長。

## 議員としての仕事を全うし 市民の生命と財産を守る

**【市会議員の使命】** 新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中での議長就任、非常に難しい状況だと感じています。このような状況だからこそ、議長として市民の生命と財産をしっかりと守っていく必要があります。国会議員と違う市議員という立場だからこそ、市民と気軽に意見を交換しながらも迅速で明朗な活動が求められます。しかしながらそれだけで終わってしまってははいけません。大地震や豪雨などの災害対策などにもしっかりと取り組んでいかなければなりません。

**【野球から政治へ】** 学生のころは名電、愛工大と野球部で野球漬けの生活でしたが、大学生野球の時に、体の小さかった私は監督からマネージャーをやるように言われました。そして3年生の時、プロ野球で活躍した西崎投手とともに全国大会で準優勝。お世話になっている方々へ挨拶に行きました。衆議院議員だった故水平豊彦先生のところにも伺った際、「お前、マネージャーか。俺の秘書になれ」と一言。しかし、

翌年に水平先生が急逝され、その後を引き継がれた片岡武司先生から「よかったら、来い」と誘われて政治への道を決めました。余談ですが、愛工大は4年生の秋に全国大会で優勝。全国優勝チームのマネージャーは評価も高く、ロッテオリオンズ（現・千葉ロッテマリーンズ）の有藤監督から「フロントに入らないか」と。他にも多くの一流企業からもお誘いがありましたが、それらを断り政治の世界に足を踏み込みました。それ以来、政治を間近で見て勉強してきた私は、議員としての仕事に自負があります。これはどの職業でも同じだと思います。

**【バッジの重み】** 初当選した際、バッジの重みを感じました。今まで以上に気を引き締めて市民のためにしっかりと仕事に取り組まなければならないという思いを心に刻み、現在に至ります。

**【モーニングルーティーン】** 毎朝30分ほど早歩きでウォーキングをしています。家にウォーキングマシンもあるので、雨の日も休みません。視察先でも早く起きて歩いています。